

議会のあり方調査特別委員会・広聴検討分科会記録	
開 会 年 月 日	平成29年 5 月 30 日
開 会 時 刻	午後 4 時 09 分
閉 会 時 刻	午後 4 時 22 分
出 席 委 員 名	◎宿 典泰 ○野崎 隆太 上村 和生 野口 佳子
	黒木騎代春 西山 則夫 工村 一三 世古口新吾
	中山 裕司
	浜口 和久 議長
欠 席 委 員 名	—
署 名 者	
担 当 書 記	山口 徹
審 査 案 件	1 議会報告会（意見交換会）について
	・皇學館大学との意見交換会実施へ向けた協議経過について
	・皇學館大学以外の議会報告会（意見交換会）について
説 明 者	議会事務局調査係長山口、調査係野村主事

会議の概要

宿分科会長が開会を宣言し、直ちに会議に入り、当分科会の検討項目「議会報告会（意見交換会）」を議題とし、「皇學館大学との意見交換会実施へ向けた協議経過について」及び「皇學館大学以外の議会報告会（意見交換会）について」の以上2件を協議した内容は、次のとおりでした。

協議の内容

1 議会報告会（意見交換会）について

【皇學館大学との意見交換会実施へ向けた協議経過について】

- ・本件については、前回3月23日開催の本分科会において、これまでの皇學館大学との意見交換会実施へ向けた協議経過が報告されていたため、今回は、前回以降の協議経過について、資料により事務局から報告された。

また、皇學館大学の学生との意見交換会を、大学側から提案があった地域課題学習（CLL活動）の一つとして実施を進めており、大学側へ申込書を提出し、改めて本件責任者である齋藤教授との協議を経て、大学内（CLL活動）での公募案内が行なわれ、6名の参加希望者があったことが報告された。

- ・今後については、皇學館大学の学生と一回目の意見交換会を6月5日午前11時10分から（1時間程度）大学内の会議室にて実施する予定となり、学生の参加者人数を考慮し、伊勢市議会としては本分科会委員（9名）で対応することが了承された。

【皇學館大学以外の議会報告会（意見交換会）について】

- ・宿会長から、皇學館大学以外の議会報告会（意見交換会）について、昨年7月に商工会議所と実施したように、特定の団体として、総連合自治会との意見交換会が提案され、全委員から正副会長に総連合自治会へのアプローチを一任することが了承された。

上記署名する

平成29年5月30日

分科会長

【別紙：配布資料】

皇學館大学との意見交換会実施へ向けた協議経過

平成 28 年 8 月 16 日：広聴検討分科会

議会報告会（意見交換会）

選挙権の引き下げもあり、高校生等若い世代との意見交換会を実施検討。

平成 28 年 11 月 7 日：広聴検討分科会

今後の広聴のあり方について

（本分科会の検討事項となっている議会報告会・意見交換会について協議）

選挙権が 18 歳になったことや、若い世代に政治や行政に関心を持ってもらうために

皇學館大学へ話をもっていくことも、前向きに検討していくことを確認した。

平成 28 年 11 月 28 日：広聴検討分科会

今後の広聴のあり方について

（議会報告会、意見交換会の実施について）

成人式の実行委員会さんとの意見交換会実施が厳しい状況であり、本年実施した商工会議所との意見懇談会のように、特定の団体や皇學館大学の学生など、実施へ向けた検討をしていく必要があり、会長から正副の方で一度、皇學館大学（高校）へ相談に行くことを提案され委員全員から一任された。

平成 28 年 12 月 19 日：皇學館大学を訪問（正副会長、事務局）

地域連携推進室 森 課長様に当市議会から意見交換会を実施したい主旨を説明し、学内で一度検討していただくこととなった。

平成 29 年 1 月：メールにて

皇學館大学から、意見交換会の開催を前向きに検討する返事あり、有意義な会を開催するために、学生さんが受身にならないようなテーマで実施できればとのこと。

平成 29 年 2 月 20 日：皇學館大学を訪問（事務局）

意見交換会の実施に向けた相談で、参加する学生について、学内の地域課題学習支援室で C L L 活動（学生が地域の皆さんと一緒に伊勢志摩地域の課題解決体験を通して、キャンパスでは学べないことを学ぶプログラム）担当する池山助教を紹介された。

平成 29 年 3 月 17 日：皇學館大学を訪問（正副会長、事務局）

地域連携推進室 森 課長及び池山助教と面談し、最初の意見交換会を 6 月 5 日の週に開催予定とし、実施主体は伊勢市議会として、学内の「伊勢志摩定住自立圏共生学」教育プログラムによる人材育成の一環で、C L L 活動の一つとして実施できればとの相談があった。

平成 29 年 4 月 14 日：C L L 活動申込書提出（別添参照）

皇學館大学側から紹介があった C L L 活動の申込書を正副会長、事務局にて作成し、地域課題学習支援室の教育開発センター 池山助教へ提出した。

平成 29 年 4 月 25 日：皇學館大学を訪問（会長、事務局）

文学部教授 教育開発センター長 C O C 事業推進責任者 齋藤 平様から提出された C L L 活動申込書の内容について、一度お話を聞かせて欲しいと依頼があったため、会長と事務局で訪問し、若い世代の方に行政や議会に関心を持ってもらうきっかけになれば、といった主旨を改めて説明、また 2、3 テーマを決めワークショップ的な意見交換の場が継続できればと、本市議会の意向を話した。

齋藤教授には、主旨を理解していただき、本大学には政治学的専門領域がないので、例えば伊勢市議会で実施されたアンケート調査を題材にしてディスカッションをする提案があり、前向きに受け捕らえていただいた。

なお、意見交換会実施に向けた今後の予定として、5 月 8 日に C L L 活動の一つとして学生に公募案内していただけるとのことで、できれば 6 月 5 日の週に一回目の実施ができればという相談をさせていただいた。

※ C O C 事業・・・大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生によって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改善を断行する大学の取組を支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的として「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」のこと。

平成 29 年 5 月 8 日：皇學館大学を訪問（正副会長、事務局）

学内 6 号館ラウンジで行われる C L L 活動の公募案内（プレゼン）の場に正副会長、事務局が同席。その場に居合わせた不特定多数（約 20 人）に対し、齋藤教授が今回の C L L 活動募集の説明をしていただき、最後に正副会長からも政治や地方行政に関心を

もっていただくなど、何かのきっかけとして若者の意見をぜひ聞かせて欲しいと参加を
お願いした。

平成 29 年 5 月 20 日：C L L 活動参加希望者確認（事務局）

先日、公募案内（プレゼン）をした C L L 活動への参加希望者を齋藤教授に確認したところ、6 名の学生から希望があったとのこと。

また、学内及び参加希望の学生のスケジュールを確認していただき、一回目の意見交換会を 6 月 5 日午前 11 時 10 分から（1 時間程度）実施できればと調整を行った。